

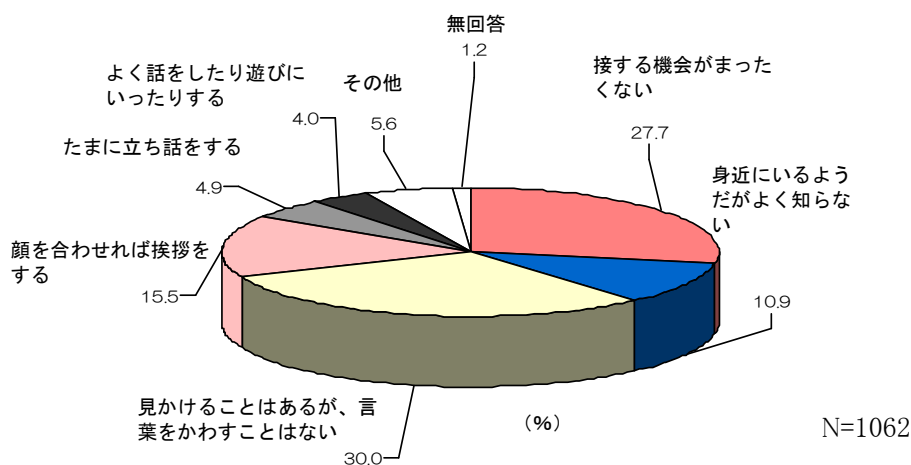
# ①市民の外国人に対する意識について

名古屋市では、平成20年9月末現在、外国籍をもつ市民の方は、人口の2.9%、65,000人を超えており、10年前に比べて約2.9倍になっています。外国人市民の方が情報不足などにより日常生活で不便を感じる状況や、文化・習慣などの違いによる地域住民とのトラブルも発生しています。

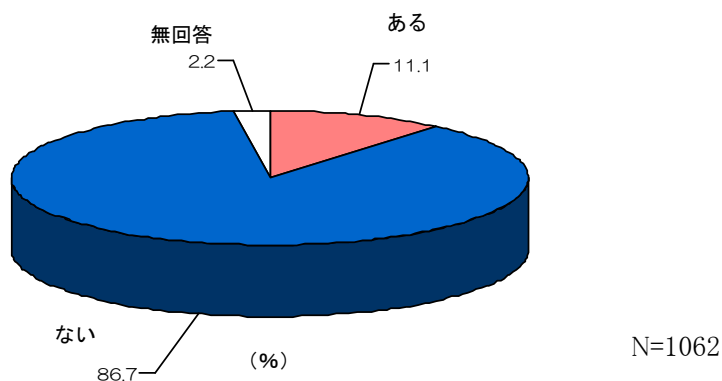
COP10開催に向けますます国際交流が進む中、市民の皆様が地域の外国人市民に対してどのように関心を寄せているかを調査し、外国人との共生のまちづくりを進めるうえでの参考にするものです。

\* 各図表の「N」は、回答者総数を表しています。

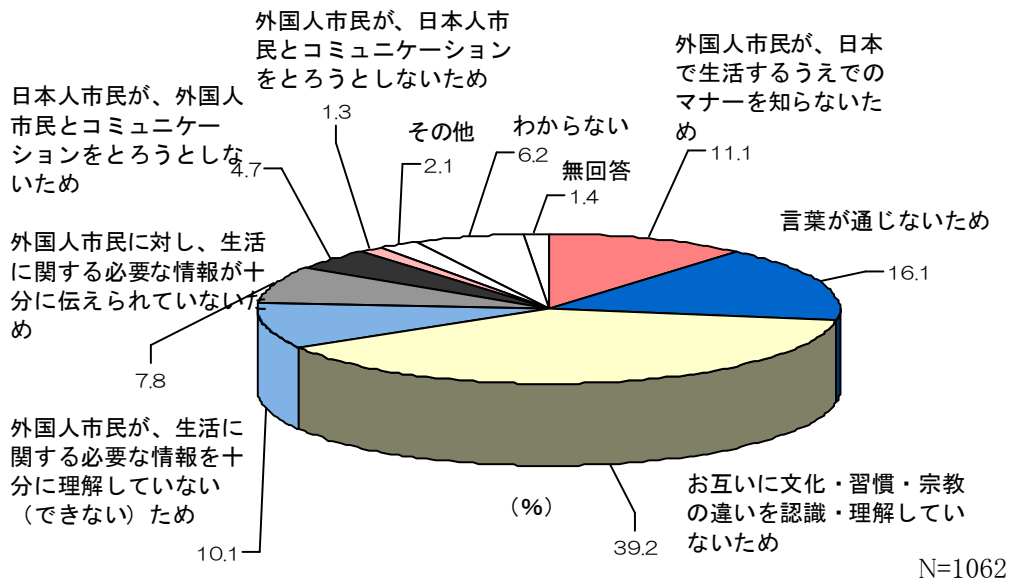
問1 あなたは、地域や職場・学校などで外国人市民とどの程度接する機会があり、どのように接していますか。(外国人市民の方は、日本人との経験についてお答えください。)(1つだけ)



問2 あなたは、外国人市民と地域や職場・学校などで、トラブルになったり、とまどったりした経験がありますか。(外国人市民の方は、日本人との経験についてお答えください。)(1つだけ)

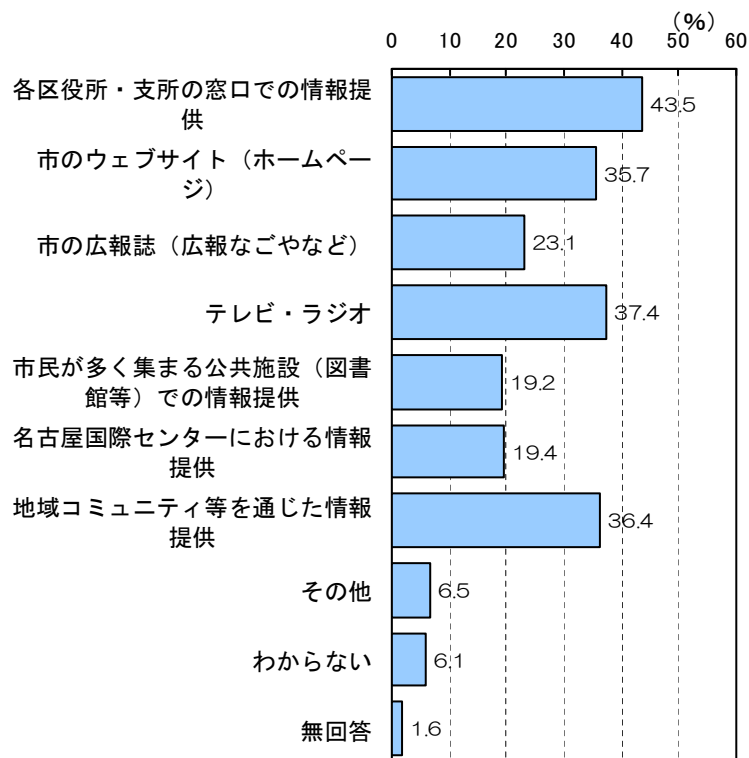


問3 外国人の方に関連してさまざまな問題が発生したり、外国人の方が生活しにくい状況が発生したりしていると言われていていることについて、あなたはどのようなことに原因があると思いますか。(1つだけ)

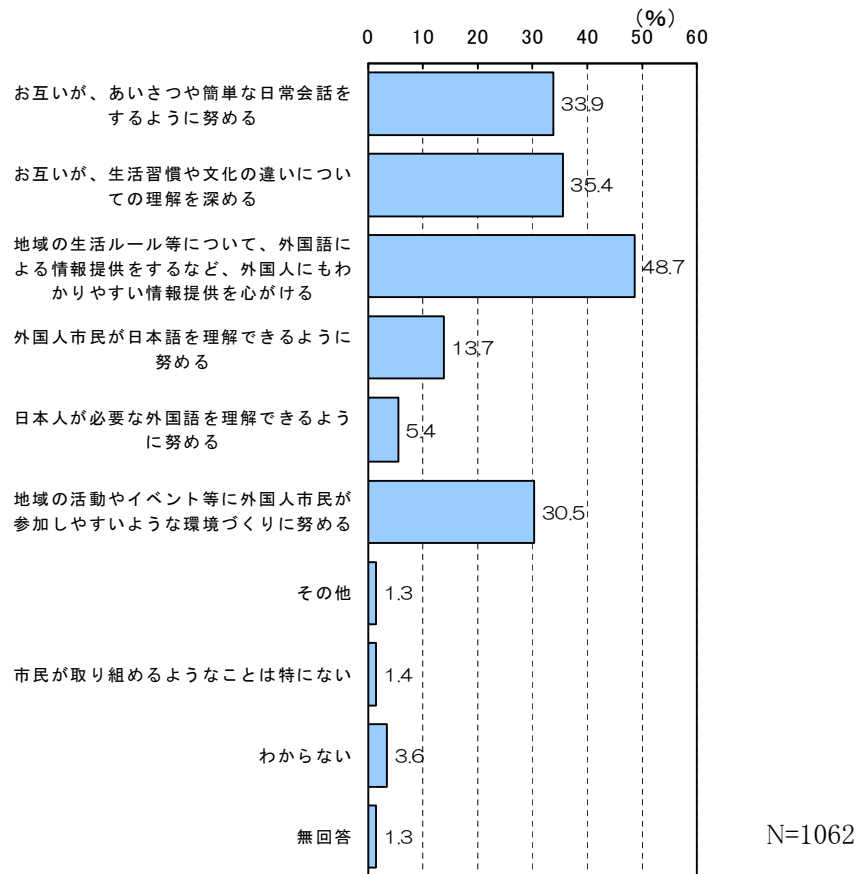


名古屋市では、日本人と外国人がともに暮らしやすいまちづくりをすすめており、そのためには、日常生活に必要な情報を、情報不足になりやすい外国人市民にも十分に伝わるようにすることや、市民の皆さまによる取り組みも重要であると考えています。

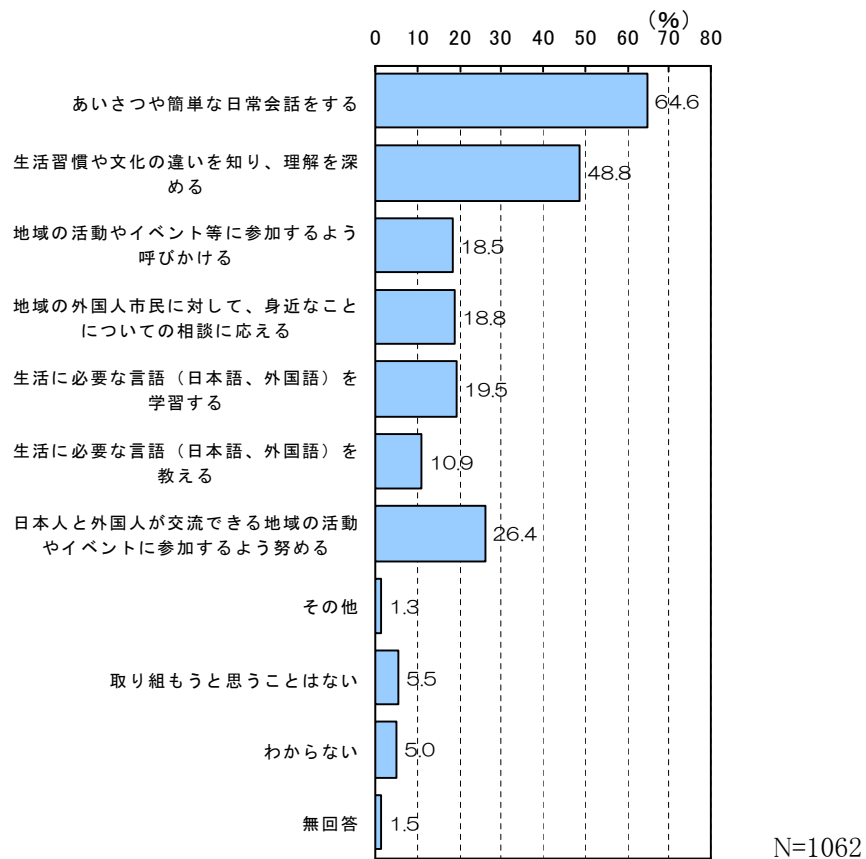
問4 あなたは、外国人市民が日常生活に必要な情報を入手する方法として、どのような方法が便利だと思いますか。(いくつでも)



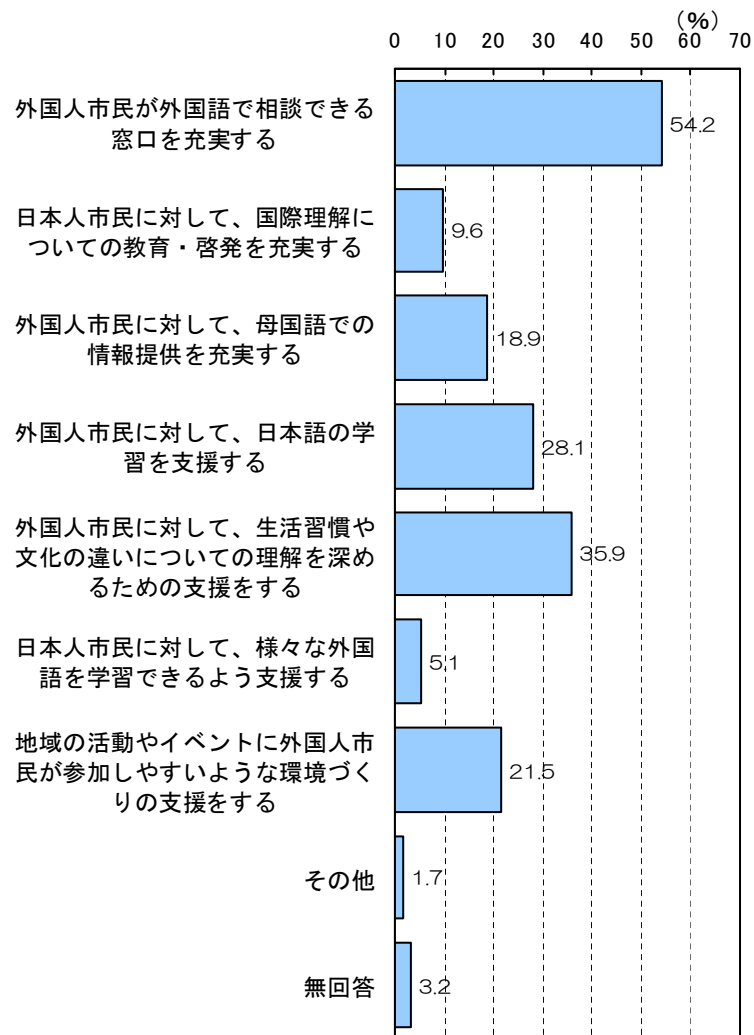
問5 あなたは、市民の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。(2つまで)



問6 実際にあなたが行ってほしいと思われることはどれですか。(いくつでも)



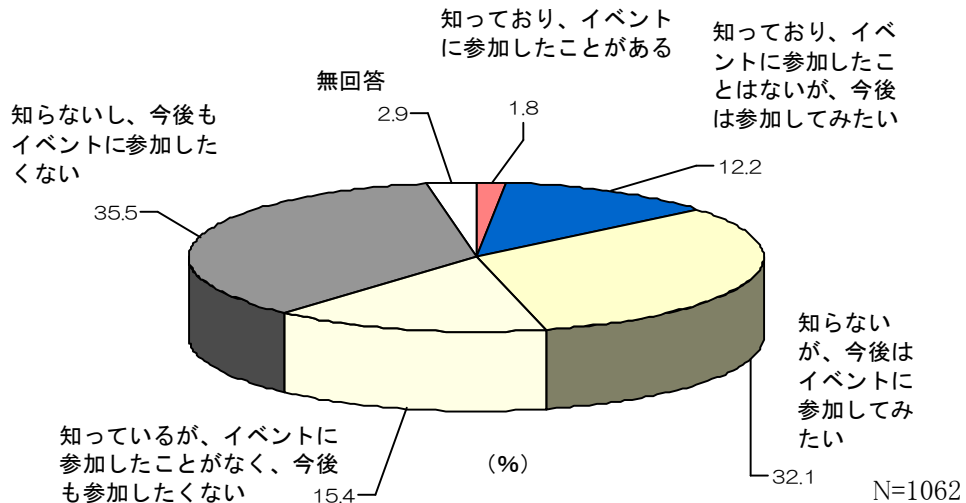
問7 日本人と外国人がともに暮らしやすいまちを実現するために、名古屋市などの行政がどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで)



N=1062

名古屋国際センターでは、外国人講師とともに学ぶ参加型の国際理解学習「国際カレッジ」や、国際協力に携わった青年海外協力隊帰国隊員がその国の人々の暮らしを紹介する「世界の暮らしを聞いてみよう」などの、日本人と外国人の相互理解を深めるイベントを開催したり、外国人市民への情報提供や相談事業を行ったりしています。

問8 あなたは、名古屋国際センターで国際交流イベントなどが行なわれていることを知っていますか。（1つだけ）



問9 日本人と外国人がともに暮らしやすいまちづくりについて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（1つだけ）

- ・名古屋国際センターでの国際交流イベントには興味があって参加していたいと思うが、少し遠いのでなかなか足が向きません。区や学区単位でアットホームな国際交流があればぜひ協力したいと思います。
- ・日本人市民が外国語を学ぶことにより、その国やその国の人々、文化に関心が生まれ、ひいてはその語学力を生かし、外国人を助けたいと思う気持ちが生まれます。人々が外国の人と接するのをためらうのは言葉の問題が大きいと思います。どの国の人でも文化、宗教に関わらず、人間としてのマナーを守って付き合うことが一番大切。
- ・特に災害時等に、いち早く情報を伝達し、助け合わなければならないことになるので、その為の準備や避難訓練等に積極的に参加してもらい、そこからお互いの信頼を得られ、住みやすい街づくりをする事。
- ・自身が海外生活をしてきた経験から、母国語による情報や相手が自分の国の文化、習慣等に理解を持っているとかなり有難く暮らしやすかったので、こちら側も相手側の事を理解し、協力できるよう努めるべきだと思う。
- ・日本人は文化、習慣をもっと大事にすべきであり、外国人はその日本に対してふれる事に意味があると思う。外国人が暮らしやすくするのはなく、日本文化にとけ込みやすくなるべきである。